

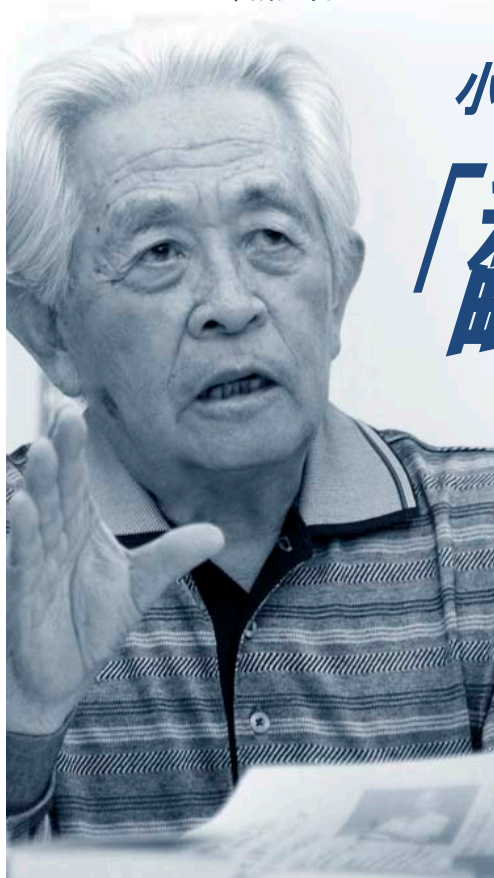
日本出版クラブ「洋書の森」主催
翻訳者のためのウィークエンド スキルアップ講座 第12回

小鷹信光が語る

「翻訳という仕事」

PARTⅢ

新マーロウ物語『黒い瞳のブロンド』を訳して



お待たせしました！ 一昨年および昨年9月に続く、待望の小鷹氏セミナー第3弾です。

初回セミナーではダシール・ハメットの『マルタの鷹』を“改訳”した経緯について語っていただき、その翻訳に対する真摯な姿勢に、翻訳者としても人としても心打たれたと大きな反響を呼びました。第2回は小説作法を踏まえた小説の翻訳法をご教授いただき、目の前の英文もさることながら作品全体への目配りの深さと広さに目から鱗が落ちる思いだったと好評でした。

今回は、刷り上がったばかりのベンジャミン・ブラック『黒い瞳のブロンド』（レイモンド・チャンドラーへのオマージュ作品）の翻訳にあたり、翻訳作品では類をみない壮大な挑戦をなされたこと、その過程でチェッカーに予想をはるかに超える指摘を受けてご苦心なされたこと、などをくわしくお話しいただく予定です。それだけでも盛りだくさんですが、ここでしか伺えない業界事情についても言及してくださることになっています。

小鷹氏は、限られた時間の中でできるだけ翻訳に役立つ情報を伝えたいので、4ページ目の課題文は各自でしっかり予習してきてもらいたいとのこと。翻訳に特化した小鷹氏セミナーは、ほかでは聴けない内容です。この機会をお聞き逃しなく！

◆ 参加要項 ◆

日 時

2014年10月11日(土) 15:00~17:00 (受付開始 14:30)

講 師

小 鷹 信 光 氏 (作家・翻訳家)

会 場

日本出版クラブ会館・セミナールーム
(新宿区袋町6番地 都営大江戸線牛込神楽坂駅より徒歩2分)
<http://www.shuppan-club.jp/>

参加費

2,100円 (当日受付にてお支払いください)

定 員

80名 (申込順、定員になり次第締切らせていただきます)
「洋書の森」未会員の皆さまもご参加になれます

受講生交流会

希望者による恒例の受講生交流会(参加費 3200円・食事代含む)を
講義終了後 17時より会場1フロア・レストランにて開催いたします
参加ご希望の方は同時にお申込みください

お申込み・お問合せ

お名前・洋書の森会員番号(会員の方)・ご連絡先電話番号、アドレス・参加人数を明記して「10/11(講座のみor講座・交流会とも)参加希望」と以下アドレス宛てにE-mailにて送信してください

(財)日本出版クラブ内 「洋書の森」事務局
E-Mail : yousho@shuppan-club.jp TEL 03(3260)5271

◆講義内容◆

I. 翻訳の心得

- ① まずは英語力を磨くこと
- ② 英語ができてても翻訳はできない——日本語の表現力を磨け
- ③ 見慣れた言葉こそ注意せよ

II. 名訳？ それとも誤訳？

——小説の翻訳における「本当の誤訳」とは
英語の慣用句や成句などをはじめとして、小説では翻訳するのに一筋縄ではいかない表現が多くみられます。たとえば、“have butterflies in one’s stomach” という表現をどう訳しますか。その語感を生かすために「言葉遊び」に徹するか、いわゆる「正しい訳」を選ぶか。数々の難題と対峙しつつ、小鷹信光氏が出した結論とは…？

III. 翻訳よもやま話——小鷹信光氏が出会った人々

◆課題文◆

当日の講義で詳しく言及します。各自しっかり予習をしておいてください。

I 以下の文はどういう意味でしょうか？

1) I was able to take off my thinking cap.

II 以下の2文の比喩はそれぞれ、どのような状態をあらわしているのでしょうか？

1) A butterfly the size of a chicken was flapping its wings somewhere in the region of my diaphragm.

2) Around here there are days in high summer when the sun works on you like a gorilla peeling a banana.

III 「私」はそれぞれの場面でどのような動作をしたのでしょうか？

1) I shut the door behind me and leaned my back against it.

2) I shut the door behind me, turned, and leaned my back against it.

3) I squeezed myself into it (telephone booth) and pushed the folding door shut behind me.

◆講師略歴◆

小 鷹 信 光

1936年8月26日、岐阜県高山市生まれ。ミステリー批評家、作家、翻訳家、アメリカ文化研究家。松田優作が主演したTVドラマ『探偵物語』（1979年9月18日から1980年4月1日まで日本テレビにて放映）の原案者としても知られる。

主な翻訳書：『破壊部隊』ドナルド・ハミルトン著（1964年、早川書房）『郵便配達夫はいつも二度ベルを鳴らす』ジェームズ・M. ケイン著（81年11月、早川書房）『マルタの鷹』ダシール・ハメット著（85年7月、河出書房新社）『ブルー・ダリア』レイモンド・チャンドラー著（88年10月、角川書店）『赤い収穫』ダシール・ハメット著（89年9月、早川書房）『影なき男』ダシール・ハメット著（91年9月、早川書房）『コンチネンタル・オプの事件簿』ダシール・ハメット著（94年5月、早川書房）『刑事コロンボ／サーカス殺人事件』W. リンクほか著（2003年4月、二見書房）『リトル・シーザー』W. R. バーネット著（03年7月、小学館）『ファイナル・カントリー』ジェームズ・クラムリー著（04年7月、早川書房）『正当なる狂気』ジェームズ・クラムリー著（07年11月、早川書房）『デイン家の呪い』ダシール・ハメット著（09年11月、早川書房）『ジャック・リッチーのあの手この手』（早川書房、13年11月）ほか。

主な著書：『アメリカ暗黒史』（64年、三一書房）『この猛烈な男たちと名言』（69年、明文社）『探偵物語』（79年9月、徳間書店）『ハードボイルド以前』（80年7月、草思社／2000年2月、『アメリカン・ヒーロー伝説』と改題して筑摩書房）『ハードボイルド・アメリカ』（83年6月、河出書房新社）『翻訳という仕事』（85年4月、プレジデント社／91年12月、ジャパントイムズ／2001年8月、筑摩書房）『アメリカ語を愛した男たち』（85年8月、研究社出版／1999年2月、筑摩書房）『ブラック・マスクの世界』全6巻（1986年4月～86年11月、国書刊行会）『サム・スペードに乾杯』（88年5月、東京書籍）『ペイパーバックの本棚から』（89年3月、早川書房）『美食ミステリー傑作選』（編著、90年6月、河出文庫）『新・探偵物語』（2000年10月、幻冬舎）『私のハードボイルド 固茹で玉子の戦後史』（06年11月、早川書房）『私のアメリカ★グラフィティ』（08年10月、ランダムハウス講談社）『〈新パイラスの舟〉と21の短編』（08年10月、論創社）『私のペイパーバック ポケットの中の25セントの宇宙』（09年3月、早川書房）『アメリカ・ハードボイルド紀行 マイ・ロスト・ハイウェイ』（11年12月、研究社）『ハードボイルド徹底考証読本』（逢坂剛・共著）（七つ森書館、13年9月）ほか。

連載：「ペイパーバック千夜一夜」（『ミステリマガジン』2014年2月号より）。

受賞歴：2005年4月、『ファイナル・カントリー』で第23回日本冒険小説協会大賞（外国部門）を、また2007年06月、自伝的評論『私のハードボイルド 固茹で玉子の戦後史』で第60回日本推理作家協会賞（評論その他の部門）を受賞。